

第2学年 芸術科（美術Ⅱ）学習指導案

指導者 浦和 瞳

1 題材名 こだわりのクロッキー

2 題材の目標

人物クロッキーにおいて、モデルから受けるイメージを基に主題を生成し、描画材による効果を生かして創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の思いや考え、表現の工夫などを感じ取り味わう。

3 題材設定の理由

本題材は、対象を素早く描写するクロッキーにおいて、人物モデルから受けるイメージから自分の主題を生成し、描画材の特性を生かしながら制作するものである。高等学校学習指導要領解説芸術編（平成21年12月）では、美術Ⅱの指導に当たって、「題材の設定や導入の方法を工夫するなどし、既成の概念にとらわれない柔軟なものの見方を培い、新しい気付きや感動が生徒の中に生じるような指導が求められる。」と示されている。クロッキーは、主として鉛筆などの描画材を使用し、対象の特徴をとらえ素早く描写する活動であるが、生徒の実態や育成したい資質や能力を踏まえ、題材を工夫し、より効果的に実施することが可能であると考える。

本校は、素直な生徒が多く、美術の授業でも与えられた課題にはしっかり取り組もうとする。しかし、指示された以上のことを行おうと積極的に行動をしたり、主体的に行動したりすることは少ない。これまでにも「つくりたいものをつくる」というよりは、「つくれるものつくる」、「何となくできた」という取組になりがちであった。

そこで、本題材では、人物クロッキーにおいて、感性や想像力を働かせながら主体的に取り組める活動を設定することによって、思考力・判断力・表現力を育むことができるのではないかと考える。まず、生徒が人物モデルから受けるイメージを基に主題を生成し表現の構想を練る活動を位置付ける。次に、自分の主題や構想を基に、表現を工夫しながらクロッキーをする。制作の過程では、ワークシートに自分の思いや考えを記入する機会を位置付けることで、「こんな思いを表現したくて描いた」という根拠を明確にした取組にする。さらに、鑑賞活動では、メッセージ交換や投票会を行うことで、生徒の主体的な活動を促し、根拠をもって伝え合うようにする。教師は、評価の観点ごとに内容を工夫したワークシートを活用することで、生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、指導に生かすようとする。

以上のことから、人物クロッキーにおける、思いや考えをもって表現するための学習活動と評価の工夫を通して、思考力・判断力・表現力を育むことができるのではないかと考え、本題材を設定した。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>①クロッキーを自分のイメージに合わせて表現することに关心をもち、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②作品の多様な表現に关心をもち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り理解を深めようとしている。</p>	<p>①人物から受けるイメージを基に感性や想像力を働かせて主題を生成し、表現方法の特性を生かして、自分のイメージに合った表現の構想を練っている。</p>	<p>①意図に応じて描画材や用紙の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求して表現している。</p>	<p>①他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、作品などについて理解を深めている。</p>

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

次	時	○ねらい ・ 学習活動	評価規準	評価方法、留意点等
1	1	○様々な描画材体験をする。 ・画材を試す中で感じたことや気付いたことをワークシートに記入する。		題材への興味・関心が高まりを観察から捉え、次の段階での評価の資料とする。
2 本時 3	2	○対象から受けるイメージを大切にしながら人物クロッキーを行う。 ・クロッキーをする。（15分間×4回） ・描画材の違いによる比較や感じたこと、気付いたこと等をワークシートに記入する。	関① 発① 技①	関①活動の様子を見取って声をかけ、状況に応じて意欲付けする。（観察） 発①主題が明確でない生徒を確認し、支援する。（観察、ワークシート） 技①表現の工夫が、主題と合ったものになっているかを見取る。（作品）
3	4	○自他の作品のもつよさなどについて、根拠をもって伝え合う。 ・作品とワークシートの「こだわり」を照らし合わせながら鑑賞し合う。 ・ワークシートにメッセージ記入する。 ・気に入った作品を三つ選び理由を書く。	関② 鑑①	関②鑑賞の視点をもって感じ取ろうとする態度を見取る。（観察、ワークシート） 鑑①根拠に基づいて自分の考えを述べているかを見取る。（観察、ワークシート）

6 本時の学習（第2時）

（1）目標

人物クロッキーに興味をもち、人物のイメージに合わせて描画材や用紙の特性を生かし、表現方法を工夫をしながら表現することができる。

（2）準備・資料

教師…ワークシート、各種描画材・用紙

生徒…スケッチブック、筆

（3）展開

学習活動・内容	・指導上の留意点、○評価（A：具体例、C：手立て）
1 本時の学習課題を把握する。 人物のイメージに合わせて、描画材や用紙を工夫しながらクロッキーをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 人物から受けるイメージを大切にしながら主体的に活動できるように促す。 描画材体験で学んだことを確認し、表現に生かすように説明する。 活動状況を見ながら言葉かけを行い、生徒が意欲をもってクロッキーができるように雰囲気づくりに努める。 クロッキー終了後、自由に鑑賞し合う時間を設けることで、生徒が様々な表現方法に気付き、次のクロッキーへの意欲を高められるようにする。 特徴的な表現をしている作品を適宜紹介することで、生徒が、よりよい表現方法を考えたり、判断したりする機会になるようにする。
2 クロッキー（1枚目）を行う。 (1) 人物のイメージに合った描画材を選ぶ。必要に応じて、いくつかの画材を組み合わせる。 (2) ワークシートにクロッキーで表現したい「こだわり」を記入する。 (3) イメージを大切にしながらクロッキーを行う。	

<p>3 クロッキー（2枚目）を行う。</p> <p>(1) 人物のイメージに合った描画材を選ぶ。必要に応じて、いくつかの画材を組み合わせる。</p> <p>(2) ワークシートにクロッキーで表現したい「こだわり」を記入する。</p> <p>(3) イメージを大切にしながらクロッキーを行う。</p>	<p>◎クロッキーを自分のイメージに合わせて表現することに 関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 (観察、ワークシート)</p> <p>A：自分のイメージに合わせて表現することに積極的に取り組んでいる。</p> <p>C：観察や会話の状況から、意欲的に取り組めるよう支援する。</p>
<p>4 2回のクロッキーから、感じたことや気付いたこと、「こだわり」等について、ワークシートの「学び・発見・気付きメモ」に記入する。</p>	<p>◎人物から受けるイメージを基に主題を生成し、表現方法の特性を生かして、自分のイメージに合った表現の構想を練っている。 (観察、作品、ワークシート)</p> <p>A：自分の主題に合わせて、描画材や用紙、描き方などから表現の構想を練っている。</p> <p>C：観察やワークシートから主題が明確でない生徒を見取り、表現したいことを考えられるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人物から受けるイメージを基に主題を生成し、工夫して表現することができたかを確認し、声かけをする。
<p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2枚のクロッキーを並べて、比較して振り返ることにより、自分の作品のよさや面白さ等を感じ取ったり味わったりし、次時の活動への意欲につながるようにする。